

経済学研究科

I 2020年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

経済学研究科では、2014年度からカリキュラム改革が実施された結果、修士課程・博士後期課程ともに、カリキュラムの整備が進んできた」と評価する。修士課程には、経済学部以外からの入学者向けにリカレント教育のための「導入科目」が準備され、他方、博士後期課程では、ワークショップで学会報告に近い経験をさせるなど、院生による学修の進展段階にあわせてカリキュラムが編成されており、高く評価できる。入学定員充足率の問題は、経済状況など外部要因の影響も大きく簡単には解決できない問題だと思われるが、入学者における一般・社会人比率の向上を目指して進路相談会のスライドを改善した結果効果があらわれるなど、着実な評価をあげている。また、ワークショップの成績と修士論文の評価の関連の定量的把握や、過年度2年分のデータに基づく指導教員選択傾向の分析など、客観的な資料に基づく現状把握と将来予測が実施されてきた点は、高く評価すべきものとする。2021年度は、教職免許課程再課程認定申請との関連で延期された新しいカリキュラムが導入される予定とのことなので、貴研究科のさらなる発展を期待したい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2021年度から新しいカリキュラムを導入した。これにより着実な教育効果が期待できると確信している。指摘のあった入学定員充足率について、2021年度はコロナ禍の中で柔軟にオンライン入試に切り替え、昨年度より修士課程及び博士課程ともに増加した。博士課程において3分の2は社会人であり、一般・社会人比率の向上に貢献している。完全終息が見通せない中、受験者のために、質を担保しつつ入試制度を柔軟に変更し、進路相談会を含めた広報活動を拡充していきたい。またオンラインと対面を併用したハイフレックス形式の授業を多く提供することで在学生の選択肢の幅を広げ、教育の質を高めていきたい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学研究科では、2021年度から新しいカリキュラムを導入しており、着実な教育効果が期待できる。また入学定員充足率の問題については、コロナ禍への対応としてオンライン入試に切り替え、昨年度よりも修士課程および博士課程ともに増加する結果をだしている。入学者における一般・社会人比率についても、博士課程における3分の2が社会人であり比率の向上に貢献している。今後も質を担保した入試制度を社会状況に応じて柔軟に活用するとともに、進路相談会を含めた広報活動の拡充に力を入れていく方針が出されており高く評価できる。また授業についても、オンラインと対面を併用したハイフレックス形式の授業を多く提供することで、学びの選択肢を広げ、教育の質を高めていく事が期待できる。2020年度大学評価委員会の評価結果に対して、いずれも適切な対応がなされている。

II 自己点検・評価

1 教育課程・教育内容

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っているか。

S A B

※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。

- ・ 修士課程1年次においては、QE筆記試験を実施する基本科目（「ミクロ経済学A/B」、「マクロ経済学A/B」、「計量経済学A/B」、「社会経済学A/B」、「経済史A/B」）の履修をコースワークの中心として位置づけている。
- ・ 修士課程2年次には、「専攻分野コースワーク」として、「歴史・思想・制度」、「金融・企業」、「政策・環境」「国際・地域」「応用ミクロ・応用マクロ・計量」5分野で科目が展開されている。
- ・ また、学部で経済学を専攻していなかった学生を対象としたリカレント教育として、「導入科目」も設置されている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・ リサーチワークは、指導教員による1,2年次の指導科目「経済学演習ⅠA/B、ⅡA/B」、研究科全体での研究発表の場であり集団指導科目である2年次2回の「修士ワークショップA,B」において行われている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年度に2021年度実施するカリキュラム改編が教授会にて最終承認された。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教授会議事録 ・ 大学院要項 	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【根拠資料】 ※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院要項 	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博士後期課程ではリサーチワークが中心となり、指導教員による指導科目「経済学演習ⅢA/B、ⅣA/B、ⅤA/B」を博士後期課程1年～3年次に設置し、さらに研究科全体での集団指導であるワークショップと学生の報告準備と反省を組み合わせさせた「博士ワークショップA/B」を設置している。 ・ 博士ワークショップでは、指名討論者である教員に2週間前には報告資料を送り、正式な学会と同様な討論を行えるようにしている。 ・ また、修士課程の上位科目（専門科目群）と合併授業とする科目（すなわち、修士と博士後期課程との乗り入れ科目）を博士課程に設置し、それらの中から2科目以上履修し、8単位以上取得することも修了要件としており、コースワークの役割を担っている。 ・ 他に、2014年度から開始されたPh.D.プログラムで、5年一貫課程のなかで研究を推進し、博士論文を完成させる課程も提供している。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年度に2021年度実施するカリキュラム改編が教授会にて最終承認された。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワorkshopプログラム ・ 教授会議事録 ・ 大学院要項 	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士2年次履修を中心に想定した「専攻分野コースワーク」として、科目数を大幅に増やして5分野の専攻（「歴史・思想・制度」、「金融・企業」、「政策・環境」「国際・地域」「応用ミクロ・応用マクロ・計量」）に配置し、専門分野の高度化に対応した。例えば高度化する理論研究においては、基本科目の「ミクロ経済学A/B」「マクロ経済学A/B」に基づき、「応用ミクロ経済学A/B」「応用マクロ経済学A/B」、さらに専門的な「上級ミクロ経済学A/B」「上級マクロ経済学A/B」を設置している。 ・ 集団指導科目である「修士ワークショップA/B」では、修士論文執筆のための中間報告を行わせる。そこでは、指導教員になっていない若手教員などからも最先端の知識に基づく指導を受けることが可能になり、専門分野の高度化に対応した教育を提供している。 <p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前述の「専攻分野コースワーク」には、高度な科目（「上級ミクロ経済学A/B」「上級マクロ経済学A/B」）も含まれており、修士で履修に至らなかった科目について博士課程での履修を想定している。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

- また、博士後期課程では、論文作成の指導が中心となる。個別の指導（経済学演習ⅢA/B～VA/B）に加え、集団指導科目である「博士ワークショップA/B」では、学会・研究会にむけての予行演習や博士論文執筆のための中間報告を行わせる。指導教員になっていない若手教員などからも最先端の知識に基づく指導を受けることが可能になり、専門分野の高度化に対応した教育を提供している。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ワークショッププログラム
- 教授会議事録
- 大学院要項

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- 教授会議事録
- 時間割 (https://www.hosei.ac.jp/application/files/4016/1891/2579/09_20210420keizai.pdf)
- 大学院要項

⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。

S A B

※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。

【修士】

- 修士課程では、アジアを中心に多くの国々から留学生を受け入れて指導をしている。Ph.D.プログラムにも優秀な留学生が所属している。また、「研修生」として受け入れ、1年間修士課程での授業を受けさせた上で、修士課程に入学するという経路は、日本語や経済学の知識に不安がある留学生を惹きつけている。2017年度入試から修士課程との併願も可能となっており、多くの留学生志願者を確保している。
- QE筆記試験を実施する基本科目では、多くの場合、アメリカの標準テキストなどの英文テキストが指定されているが、アジアからの留学生には日本語の勉強も強く希望している学生が多い。そのため「日本語ⅠA/B、ⅡA/B、ⅢA/B」を設置し、留学生向けに日本語によるレジュメの作成の仕方、日本語を用いた講義・ワークショップでのプレゼンの仕方などの指導を提供している。
- 語学という点ではなく講義内容についてのグローバル化として、グローバルな視点からのものの捉え方、他国の状況や日本との関係、異文化や新たな視点、についての洞察を与える科目も提供している。（たとえば「環境政策論」「地域経済論」「ジェンダー経済論」など。）

【博士】

- 「日本語ⅠA/B、ⅡA/B、ⅢA/B」は博士課程の院生も履修可能であり、日本語での論文作成や学会・研究会発表をサポートするようになっている。
- グローバルな視点からのものの捉え方、他国の状況や日本との関係、異文化や新たな視点、についての洞察を与える科目は、博士課程の院生も履修可能である。ただし、達成指標等についてはより高い水準を求めている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- 教授会議事録
- 時間割 (https://www.hosei.ac.jp/application/files/4016/1891/2579/09_20210420keizai.pdf)
- 大学院要項

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

※履修指導の体制及び方法を記入。

【修士】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 例年、年度初めのオリエンテーション時に、研究科長がプログラムの紹介や履修モデルを示して、詳細な（1時間程度の）履修ガイダンスを行っている。 2020年度のガイダンスはオンラインのみであったが、2021年度はオンラインと対面のハイフレックスで実施した。 修士課程1年次から（研修生も含め）すべての学生が指導教員につき、各指導教員による履修指導がきめ細かく行われている。 	
<p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年、年度初めのオリエンテーション時に、研究科長がプログラムの紹介や履修モデルを示して、詳細な（1時間程度の）履修ガイダンスを行っている。 2020年度のガイダンスはオンラインのみであったが、2021年度はオンラインと対面のハイフレックスで実施した。 博士後期課程1年次から、すべての学生が指導教員につき、各指導教員による履修指導がきめ細かく行われている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの蔓延に伴い2020年度より新入生・執行部・事務方をメンバーとしたメーリングリストを期間限定で立ち上げ新入生へのサポートを行ったが、2021年度も継続して運営している。 優秀修士論文賞を設立し、学生にインセンティブを与えるようにした。2020年度は2名の学生に同賞を授与し、表彰状と目録を手渡した。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションスライド 履修要項 (https://www.hosei.ac.jp/application/files/2516/1579/2589/09_2021keizai.pdf) https://www.hosei.ac.jp/gs/info/article-20210415144124/ 	
<p>②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※ここでいう「研究指導計画」とは、事務手続きのスケジュールやシラバス等の個別教員の指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導体制及び研究指導スケジュールをまとめたものを指します（学位取得までのロードマップの明示等）。また、「あらかじめ学生が知ることの状態」とは、HPや要項への掲載、ガイダンスでの配布等が考えられます。</p>	
<p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションスライドにて概要を示し、詳細を記した「研究指導計画」を法政大学HPに掲載している。 	
<p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションスライドにて概要を示し、詳細を記した「研究指導計画」を法政大学HPに掲載している。 	
<p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「研究指導計画 経済学研究科」（法政大学HP） <p>https://www.hosei.ac.jp/application/files/5916/1974/7037/2021kou_keizai_kenkyu_.pdf</p>	
<p>③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p>	
<p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生については、オリエンテーションスライドにて概要を示し、詳細を記した「研究指導計画」を法政大学HPに掲載している。その理念、指導計画の内容とロードマップについては教授会で強く共有されているものと確信している。 研究科全体の集団指導科目である2年次2回の「修士ワークショップ」において、指導計画の進捗について、指導教員以外のチェックも行われる。 	
<p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生については、オリエンテーションスライドにて概要を示し、詳細を記した「研究指導計画」を法政大学HPに 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>掲載している。その理念、指導計画の内容とロードマップについては教授会で強く共有されているものと確信している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究科全体の集団指導科目である「博士ワークショップ A/B」において、指導計画の進捗について、指導教員以外のチェックも行われる。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究指導計画 経済学研究科（法政大学 HP） https://www.hosei.ac.jp/application/files/5916/1974/7037/2021likou_keizai_kenkyu_.pdf 	
<p>④通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの蔓延に伴い 2020 年度より新入生・執行部・事務方をメンバーとしたメーリングリストを期間限定で立ち上げ新入生へのサポートを行ったが、2021 年度も継続して運営している。 2020 年度のガイダンスはオンラインのみであったが、2021 年度はオンラインと対面のハイフレックスで実施した。 2021 年度の授業いくつかはオンラインだけでなく、対面のハイフレックス授業も提供し、受講生の選択肢を広げた。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションスライド 教授会議事録 	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※成績評価と単位認定の確認体制及び方法を記入。</p> <p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義形式の科目については、14 回中 3 回以上欠席した場合には S を出さないこと、5 回以上欠席した場合には単位を出さないことを教授会で定めている。また、教授会の場合でも確認している。 成績評価基準は、大学院要項に明記されている。 Ph.D. プログラム 2 年次の「専攻分野コースワーク」は、GPA2.7 が合格基準となる。 	
<p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義形式の科目については、14 回中 3 回以上欠席した場合には S を出さないこと、5 回以上欠席した場合には単位を出さないことを教授会で定めている。また、教授会の場合でも確認している。 成績評価基準は、大学院要項に明記されている。 	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院要項 教授会議事録および配付資料 	
<p>②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p>
<p>※学位論文審査基準の名称及び明示方法を記入。</p> <p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションスライドでディプロマポリシーに触れ、「学位論文審査基準」については法政大学 HP に掲載している。 	
<p>【博士】</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーションスライドでディプロマポリシーに触れ、「学位論文審査基準」については法政大学 HP に掲載している。 	
<p>【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学研究科学位論文審査基準（法政大学 HP） <p>https://www.hosei.ac.jp/application/files/2316/1974/7037/keizai_shinsa20210423.pdf</p>	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文審査結果は教授会で回覧されており、学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等は把握されている。 ・ 博士論文審査は教授会全員で行われて学位授与を確認している。 ・ 博士後期課程在籍者は把握されており、学位授与率・学位取得までの年限も確認されている。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教授会議事録（2021 年度第 1 回） ・ 博士学位申請論文審査委員会議事録 	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学位論文審査基準」を教授会で定め、学位取得の水準を確認している。 ・ 2 年次 2 回の報告を行わせる「修士ワークショップ」を開催し、学位取得の条件である修士論文の水準を保つための集団指導が行われている。さらに、ワークショップの成績は出席した各教員の評価を執行部が集計することにより、よりきめ細かい評価を行っている。そのため、学位論文に要請される水準までの到達度を学生に理解させることができる。 <p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学位論文審査基準」を教授会で定め、学位取得の水準を確認している。 ・ 「博士ワークショップ A/B」を開催し、学位取得の条件である博士論文の水準を保つための集団指導が行われている。さらに、ワークショップの成績は出席した各教員の評価を執行部が集計することにより、よりきめ細かい評価を行っている。そのため、学位論文に要請される水準までの到達度を学生に理解させることができる。 ・ 博士ワークショップの充実のため、報告者には報告資料を事前に提出させ、教員の討論者を各報告 2 名ずつ割り当て、学会同様の質の高い討論を行っている。 	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学研究科学位論文審査基準（法政大学 HP） <p>https://www.hosei.ac.jp/application/files/2316/1974/7037/keizai_shinsa20210423.pdf</p>	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※責任体制及び手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。</p> <p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文審査後に、口述審査に出席した教員全員による成績の回覧と内容に関する審議を行い、各申請論文の審査結果の適切さを検証している。その上で、教授会で審議・承認を行っている。 ・ 修士論文からリサーチペーパーへの変更については、指導教員の承認を必要とし、修士論文同様口述試験を課している。 <p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博士号申請の都度、学位規則や内規、実情に鑑み、経済学研究科における博論審査フローを教授会で作成・確認している。 	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 実際に 2020 年度の博士号授与はそのフローに従い行った。 	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>とくになし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教授会議事録 経済学研究科における博論審査フローの確認 (desknet's 上資料) 博士(経済学)学位論文審査委員会議事録 	
⑥学生の就職・進学状況を研究科(専攻)単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアセンターが卒業時に卒業生カードを配布し、就職・進学状況について把握している。2019 年度は教授会の場でも共有した。 博士号取得者については、経済学部助教授採用の有資格者になるため、その就職先等は指導教員などを通じて確認され、研究科として把握している。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教授会議事録 法政大学大学院入学案内 2022 	
<p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 半期ごとに開催している修士ワークショップでは、参加教員に各学生の報告及び研究内容の評価を提出してもらい、執行部集計の上、教授会で回覧し、学習成果の情報を共有している。講義で提供されている理論、制度、歴史及び実証分析の手法に関しての各学生の理解は、修士論文の研究内容および報告から推測され、参加教員各自の各学生の研究報告への評価に反映されると思われる。各学生に対する参加教員の評価の集計は、学位授与方針に基づく基準を各学生がどの程度満たしているかの大きな指標になっていると思われる。 <p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 半期ごとに開催している博士ワークショップでは、コメント担当の教員 2 名からの評価を執行部集計の上、教授会で回覧し学習成果の情報を共有している。講義で提供されている理論、制度、歴史及び実証分析の手法に関しての各学生の理解は、博士論文の研究内容および報告から推測され、参加教員各自の各学生の研究報告への評価に反映されると思われる。各学生に対する参加教員の評価の集計は、学位授与方針に基づく基準を各学生がどの程度満たしているかの大きな指標になっていると思われる。 	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教授会回議事録および回覧資料 	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ループリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生による授業評価アンケートの集計結果を教授会で共有している。 <p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生による授業評価アンケートの集計結果を教授会で共有している。 	
<p>【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 教授会議事録</p>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>【修士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士ワークショップでの評価（指導教員以外も評価に加わる）は学生の日頃の学習達成度を示すものとなっている。また、その後の教員間での意見交換により、教育内容の適切性を検証している。 ・ 大学院での教育成果である修士論文については、口述試験担当者の評価をもとに、口述試験出席の教員全員で審査・確認する。そのさい、口述試験出席の教員全員に、すべての修士学位申請論文が回覧される。審査結果は、教授会で回覧され、教授会構成員全員でチェックを行っている。 	
<p>【博士】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博士ワークショップでの評価（指導教員以外の2名）は学生の日頃の学習達成度を示すものとなっている。また、その後の教員間での意見交換により、教育内容の適切性を検証している。 ・ 博士論文の審査は教授会全員で行われている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 教授会議事録および配付（添付）資料</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の集計結果については教授会で回覧している。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ 教授会議事録</p>	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<p>(1) 「専攻分野コースワーク」として、科目数を大幅に増やして5分野の専攻（「歴史・思想・制度」「金融・企業」「政策・環境」「国際・地域」「応用ミクロ・応用マクロ・計量」）に配置し、専門分野の高度化に対応している。</p> <p>(2) 経済学部以外からの入学者向けにリカレント教育のための「導入科目」を準備している。</p> <p>(3) アジアからの留学生のため「日本語ⅠA/B、ⅡA/B、ⅢA/B」を設置し、留学生向けに日本語によるレジュメの作成の仕方、日本語を用いた講義・ワークショップでのプレゼンの仕方などの指導を提供している。</p> <p>(4) 修士課程では、論文作成ための個別の指導（経済学演習ⅠA/B、ⅡA/B）に加え、集団指導科目である「修士ワークショップA/B」では、修士論文執筆のための中間報告を行わせる。そ</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>ここでは、指導教員になっていない若手教員などからも最先端の知識に基づく指導を受けることが可能になり、専門分野の高度化に対応した教育を提供している。</p> <p>(5) 博士後期課程では、論文作成のための個別の指導（経済学演習ⅢA/B～ⅤA/B）に加え、集団指導科目である「博士ワークショップA/B」では、学会・研究会にむけての予行演習や博士論文執筆のための中間報告を行わせる。指導教員になっていない若手教員などからも最先端の知識に基づく指導を受けることが可能になり、専門分野の高度化に対応した教育を提供している。</p> <p>(6) 2018年度に方向性が決まったカリキュラム改革を本年度より実施した本年度からのカリキュラム改革による現行の教育課程・教育内容については、教授会を通じて教授会構成員の間で共通の認識を得ていると確信している。</p>	
--	--

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> 本年度は昨年度より定員充足率が上昇したが、まだまだ低水準である。 一般・社会人比率の向上も、本年度は昨年度より上昇したが、こちらもまだまだ低いままである。 これら問題点を解決できるよう入学説明会による情報発信や入試制度改革に取り組んでいきたい。 	

【この基準の大学評価】

<p>経済学研究科ではカリキュラム改編を行い、従来の教育課程・内容を充実させた内容となっており高く評価できる。</p> <p>修士課程1年次においては、基本科目の履修をコースワークの中心として位置づけ、修士課程2年次には、「専攻分野コースワーク」として5分野での科目が展開されている。また、経済学部以外からの入学者向けにリカレント教育のための「導入科目」も準備している。留学生に対する科目では、日本語によるレジュメの作成方法や日本語を用いたプレゼンの仕方などの指導を提供し、グローバル化の推進においても、丁寧な教育を実践している。</p> <p>リサーチワークについては、修士・博士後期課程ともに、指導教員による個別指導科目に加え、研究科全体での集団指導科目である「修士ワークショップ」「博士ワークショップ」が設置されている。博士ワークショップでは、指名討論者としての教員も配置し学会と同様の討論を行っており、高度化にも対応する内容となっている。</p> <p>履修指導についても、きめ細かなガイダンスが準備されている。修士・博士後期課程ともに、年度初めのオリエンテーション時に研究科長が詳細な履修ガイダンスを実施している。加えて、課程1年次から全ての学生に対して各指導教員による履修指導も行われており、学生の学びを進めていくための体制が整っており評価に値する。</p> <p>今後は、新カリキュラムの安定した運用と検証、そして情報発信を積み重ね、更なる質と量の向上に期待したい。</p>
--

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
② 研究科（専攻）独自のFD活動は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済学部で行われるFDセミナーに出席。 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業評価アンケート結果の共有。 ・ オンラインでの情報の共有。 ・ desknet's に経済学研究科の枠を設け、研究科長会議資料などの資料を置き、教授会メンバーで情報共有をはかるようにしている。 <p>【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教授会議事録および配付資料 	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サバティカル制度による長期在外研究員（または研修員）、国内研究員（または研修員）。 ・ 外国人客員研究員との交流。 ・ 経済学部学会研究会（新任教員研究報告会を含む）。 ・ 比較経済研究所、大原社会問題研究所と連携した研究会。 <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>とくになし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教授会議事録および配付資料 	
<p>③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入</p> <p>とくになし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学部学会ホームページ ・ 教授会開催通知 ・ 比較経済研究所ホームページ ・ 大原社会問題研究所ホームページ 	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ desknet's に経済学研究科の枠を設け、研究科長会議資料などの資料を置き、教授会メンバーで情報共有をはかるようにしている。 	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

経済学研究科では、恒常的に行われているFDセミナーへの参加、授業評価アンケート結果の共有などが行われている。情報共有の手段としてもオンラインや、desknet'sに経済学研究科の枠を設け、研究科長会議等の資料を置くなど、メンバー間での情報共有のしやすさの工夫がみられ評価できる。

また外国人客員研究員との交流に加え、経済学部学会研究会（新任教員研究報告会を含む）や比較経済研究所、大原社会問題研究所との連携による研究会によって、教員の研究活動を活発化させる仕組みが整っている。

3 その他の基準のCOVID-19への対応

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。
①その他、研究科として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。
※取り組みの概要を記入
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの蔓延に伴い 2020 年度より新入生・執行部・事務方をメンバーとしたメーリングリストを期間限定で立ち上げ新入生へのサポートを行ったが、2021 年度も継続して運営している。 2020 年度のガイダンスはオンラインのみであったが、2021 年度はオンラインと対面のハイフレックスで実施した。 2021 年度の授業いくつかはオンラインだけでなく、対面のハイフレックス授業も提供し、受講生の選択肢を広げた。
【根拠資料】
<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションスライド 教授会議事録

【この基準の大学評価】

経済学研究科では、COVID-19 への対応としては、新入生へのサポートとして 2020 年度より新入生と執行部と事務をメンバーとしたメーリングリストを期間限定で立ち上げ、それを 2021 年度も継続して運営している。学生たちの身近な質問や不安にも対応できる細やかな支援策であり高く評価できる。ガイダンスについて、2020 年度はオンラインのみであったが 2021 年度はオンラインと対面のハイフレックスで実施している。授業についても 2021 年度はオンラインに加えて対面型のハイフレックス授業も提供するなど、感染に配慮しながらも受講生の選択肢を広げている。

III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証					
1	中期目標	大学院の質保証体制を安定的に維持する。					
	年度目標	質保証委員会を、年度初め、中間、年度末と、年 3 回開催する。					
	達成指標	質保証委員会の開催記録。					
	年度末報告	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">教授会執行部による点検・評価</td> </tr> <tr> <td>自己評価</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>3 回の質保証委員会（第 1 回目：5 月 15 日、第 2 回目：12 月 11 日、第 3 回目：3 月 12 日）を開催した。とりわけ、第 2 回の質保証委員会では年度の途中において、どの程度達成されているか、残された問題は何か</td> </tr> </table>	教授会執行部による点検・評価		自己評価	S	理由
教授会執行部による点検・評価							
自己評価	S						
理由	3 回の質保証委員会（第 1 回目：5 月 15 日、第 2 回目：12 月 11 日、第 3 回目：3 月 12 日）を開催した。とりわけ、第 2 回の質保証委員会では年度の途中において、どの程度達成されているか、残された問題は何か						

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

			、について情報を共有し、年度目標を再確認するよい機会となった。	
	改善策		ひきつづき、この体制を維持したい。	
		質保証委員会による点検・評価		
	所見		回数、議論の内容とも、内部質保証の目的を十分達成するものだった。	
	改善のための提言		引き続き、回数、議論の質を維持されたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】		
2	中期目標	博士後期課程のコースワークの整備充実。		
	年度目標	博士後期課程専用の講義の新設または既存科目の履修学生の要件の変更など検討する。		
	達成指標	2020年度中に、2021年度のカリキュラム改革について審議・承認を行う。そのさいに既存科目の活用も同時に審議する。		
		教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	S	
		理由	(1) カリキュラム改革を行い、修士導入科目を削り、専門の新設講義科目として「金融ファイナンス論」（従来の導入科目である「金融ファイナンス基礎」と専門科目である「金融システム論」とを統合）と「応用計量経済学」（「マイクロ計量分析 A/B」を改称）とを置いた。これらは博士後期課程専用の講義科目ではないが、博士後期院生の履修可能な専門科目の内容の見直しとなっている。(2) また、同じくカリキュラム改革において、実態に即して、研究指導科目群についての履修要件を見直した。	
		改善策	カリキュラム改革の効果の検証が次年度からの課題となるだろう。	
			質保証委員会による点検・評価	
		所見	カリキュラム改革によって、博士後期課程のコースワーク科目が、拡充された。	
		改善のための提言	コースワーク科目の拡充、質向上の取り組みを継続されたい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】		
3	中期目標	MA コースのカリキュラム改革の検証と改訂。		
	年度目標	隔年開講科目の開講、新設講義科目の検討。		
	達成指標	2020年度中に、2021年度のカリキュラム改革について審議・承認を行う。そのさいに既存科目の活用も同時に審議する。		
		教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	授業編成にあたり、5分野の共通科目を除く専門科目の開講に関しては、「基本的に連続開講を行わない」方針とし、限られた教員で、多くの授業科目を提供できるように工夫している。また、上の項目に述べたように、講義科目を新設した。	
		改善策	単純に隔年開講というだけではなく、院生のニーズや全体のバランスを考えた開講も必要となるだろう。	
			質保証委員会による点検・評価	
		所見	開講の調整により、教育資源の有効活用が、推進された。	
		改善のための提言	一層効率的な教育資源の活用、およびカリキュラム改革の効果の検証を、期待する。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】		
4	中期目標	Ph.D. 5年一貫コースの成果の検証（QE 試験の効果の検証など）。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	修士・博士後期課程での履修が効果的に行われているかの検証を行う。	
	達成指標	2020年度中に、2021年度のカリキュラム改革について審議・承認を行う。そのさいに既存科目の活用も同時に審議する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	Ph.D.院生の研究指導科目群について、例えば、ワークショップ科目履修が選択必修になっているにも関わらず、まだ論文の完成度が熟していないという理由で履修しない状況が見受けられた。こうした観察により、ワークショップ報告を研究指導科目の履修と切り離す形でのカリキュラム改革を行った。
		改善策	研究指導科目群だけでなく、授業科目についても、今後検証が必要になるだろう。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	ワークショップ科目と研究指導科目の関連が整理され、学習のための環境が整理された。
改善のための提言		授業科目群の改革、およびQE試験の効果の検証を、期待する。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
5	中期目標	MAコースの教育方法の再検討	
	年度目標	指導体制の整備。	
	達成指標	2020年度の入学者のマッチングについて観察しながら、2021年度からの指導体制を整備する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	2020年度よりキャップ制（分野毎および教員毎のキャップ。とりわけひとりあたり教員の新規担当院生数が2名を超える場合には断ってもよい）を敷き、負担が集中することのないように配慮している。担当教員からは好意的な声も寄せられている。また、今回、コロナ禍で対面でのマッチングが出来ず、指導教員がなかなか確定できない院生もいたが、事務課と研究科長とで相談に乗り、該当分野の教員での指導を確定させた。
		改善策	ひきつづき、2021年度の入学者のマッチングについての観察を行い、キャップ制の検証を行う。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		コロナ禍の中にあって、2020年度入学生のための、適切な指導体制が構築された。	
改善のための提言		2021年度以降についても、新入学生に対して、臨機応変な支援を期待する。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
6	中期目標	MAコースの教育方法の再検討。	
	年度目標	外的要因に左右されない教育サービスの提供。	
	達成指標	オンライン授業のサポートの意見交換。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	特に独立させた形での意見交換会は行っていないが、今年度、授業形態の審議のなかで、工夫についての情報共有がなされたと思う。
改善策	次年度の状況が不確実であるが、コロナがおさまっても、オンライン自体は有益な手段となる。経験・情報の共有が必要になるだろう。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		質保証委員会による点検・評価
	所見	オンライン授業に対する支援活動は、研究科全体の教育の質向上に寄与した。
	改善のための提言	オンライン授業の質向上に資する活動を、継続されたい。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
7	中期目標	博士後期課程の教育方法の再検討。
	年度目標	コースワークとリサーチワークの適切な組み合わせについて検討する。
	達成指標	実際の履修状況を確認しながら、学生のニーズにこたえられるような科目の開講について検討し、カリキュラム改革を実現させる。
		教授会執行部による点検・評価
	自己評価	S
	理由	2017年度以降入学者についての履修状況を教授会で共有した。博士後期課程の最初のほうでは、論文作成よりも知識の習得に重点が置かれるという印象を受けた。なお、カリキュラム改革では、ワークショップを毎年2回という形ではなく、博士後期課程中に3回とした。
	改善策	分析については、対象者および内容ともに限定的であり、特に、2017年より前の入学者、また、2021年度以降の入学者についても、何らかの分析が必要になると感じた。
		質保証委員会による点検・評価
	所見	授業科目、研究指導科目、ワークショップ科目の院生の履修状況について、知見が深まった。
	改善のための提言	教育方法改革の効果の継続的な分析と、その結果に基づいた、指導の一層の質向上を期待する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
8	中期目標	博士後期課程の教育方法の再検討。
	年度目標	外的要因に左右されない教育サービスの提供。
	達成指標	オンライン授業のサポートの意見交換。
		教授会執行部による点検・評価
	自己評価	A
	理由	特別な意見交換会は行っていないが、今年度、授業形態の審議のなかで、工夫についての情報共有がなされたと思う。
	改善策	次年度の状況が不確実であるが、コロナがおさまっても、オンライン自体は有益な手段となる。経験・情報の共有が必要になるだろう。
		質保証委員会による点検・評価
	所見	オンライン授業に対する支援活動は、研究科全体の教育の質向上に寄与した。
	改善のための提言	オンライン授業の質向上に資する活動を、継続されたい。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
9	中期目標	Ph.D.プログラム（5年一貫コース）の教育手法の再検討。
	年度目標	Ph.D.プログラム（5年一貫コース）の教育手法やそのアピールの方法について模索し、受験生を集める。
	達成指標	Ph.D.プログラム（5年一貫コース）の理念について、教授会内で意見交換を行う。また、進学相談会等で、より強く情報発信を行っていく。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	(1) Ph. D. プログラムのあり方については、カリキュラム改革とからめでの議論を行った。当初の理念と実態との乖離などを考慮し、カリキュラム改革において、Ph. D. 院生の修士課程時の論文指導やワークショップ報告を必須とすることとした。また、Ph. D. 院生は博士後期課程時、毎年2回のワークショップ科目履修を選択必修の形で置いていたが、実態に即し、ワークショップ報告を科目と切り分け、在学時3回の必修という形にした。(2) 2回の進学相談会については、それぞれ、これまでのスライドを改訂・オンデマンド配信。特に第2回目の進学相談会では、博士後期課程院生のメッセージスライドも配信や、研究科長からの音声による説明も加えた。新たな Ph. D. プログラム合格者は一名であったが、入試口述時に Ph. D. に関心を寄せた学生もおり、情報発信の仕方について、今後の工夫が必要と感じた。
	改善策	Ph. D. 院生の数が少ない。2020年度の段階で、修士課程では2名。そのうち、博士後期課程に進んだ1名の院生はかなりの年数をかけての進学で、進学のためのQEが厳しすぎるのではないかという声も一部の教員から挙がっている。今回、カリキュラム改革で、専門科目を新規に置くとともに、研究指導科目のあり方を見直したが、実質的な教育の方法や、QEのあり方については今後の課題となるだろう。また、情報発信の仕方についても工夫が必要と感じた。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	Ph. D. プログラム（5年一貫コース）において、カリキュラム改革と、教育方法の改善が適切に実施された。また、コロナ禍の中にあって、Ph. D. プログラムについて、適切な情報発信が行われた。
	改善のための提言	適切な、カリキュラム改革、教育方法改善、情報発信を継続されたい。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
10	中期目標	M. A. プログラムにおけるコースワークの学習成果への評価の共有。
	年度目標	M. A. プログラム院生の履修状況の把握とその学習成果の把握。
	達成指標	M. A. プログラム1年生が、コースワーク科目とその他の科目をどのように組み合わせて履修しているか把握し、教授会で議論を行う。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	M1院生の履修状況について、教授会で情報共有した。
	改善策	カリキュラム改革の効果の検証が次年度からの課題となるだろう。
質保証委員会による点検・評価		
所見	M1院生のコースワーク科目、リサーチワーク科目、ワークショップ科目の履修状況について、知見が深まった。	
改善のための提言	カリキュラム改革と履修状況の関連について、検証を期待する、	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
11	中期目標	半期ごとに開催される「修士ワークショップ」及び「博士ワークショップ」の効果についての検討。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	修士ワークショップにおける参加教員の集団評価が修士論文の質を反映しているか、集団評価の効果に関して認識の共有を図る。
	達成指標	修士ワークショップ時の評価と修士論文の得点との関係の検証、ワークショップ参加教員の意見聴取などをもとに、教授会で議論を行う。また、ワークショップのあり方について、教授会で議論を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	第2回ワークショップ後、懇談会をオンラインで開催し、教員、参加院生より意見を聴取した。カリキュラム改革により、ワークショップ報告自体は、履修科目から切り離すことになったが、院生には複数回の報告が義務づけられることになった。ワークショップ時の評価と修士論文の評価とについては、修士論文口述試験後に一部議論があり、その分については確認がなされた。また、得点分布についても教授会で情報を共有した。さらに、今年度より優秀修士論文を設け、推薦された論文についての検討を行う中で、集団評価についての認識をさらに深めることが出来たと思う。
	改善策	参加教員からの意見を反映し、よりよいワークショップの形を模索していきたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	ワークショップによる、修士論文の質向上への効果について、知見が深まった。
	改善のための提言	優秀修士論文表彰制度の、論文質向上効果について、検証を期待する。
No	評価基準	学生の受け入れ
12	中期目標	外国人留学生の比率が著しく高いので、社会人、一般の入学者数の増加を図る。
	年度目標	進学説明会などで本研究科のカリキュラム、論文指導などの魅力をさらにPRする。と同時に経済学部出身者へのアピールを行う。
	達成指標	新たな宣伝パンフレットの作成。また、努力目標として、毎年度4-5名程度、一般、社会人、学部出身者の入学者数を確保する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2回の進学相談会において、それぞれ、これまでのスライドを改訂・オンデマンド配信。特に第2回目の進学相談会では、博士後期課程院生のメッセージスライドも配信や、研究科長からの音声による説明も加えた。また、学部パンフレットでの大学院志願者についての項目を大幅に改訂した。（後者は次年度のパフレットなので、次年度の効果に期待したい。）社会人4名、学部出身者3名の合格者を得た。
	改善策	社会人や学部出身者を中心に、引き続き魅力を発信していきたい。
質保証委員会による点検・評価		
所見	コロナ禍の中にあって、本研究科について、オンラインでの適切な情報発信が行われた。社会人、学部出身の合格者数目標を達成した。	
改善のための提言	コロナ禍の収束後の対面での情報発信についても、創意工夫を期待する。	
No	評価基準	教員・教員組織
13	中期目標	次のカリキュラム改革を見越しながら、当該期間の人事採用計画を立て、年齢構成の均整化に配慮しつつ、人事採用を実施する。
	年度目標	今年度募集中の3つの人事採用を、年齢構成にも配慮しつつ、成功させる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	教員採用の成否。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	4つの人事が立ちあげられ、3人の新規教員が採用となった。このうち2人は50才未満。2名の定年退職者も考えると、結果として、学部教員の平均年齢の是正を図ることができた。また、そのうちの1名は、次年度より大学院科目を担当することになり、即戦力のある人材を確保できたと考える。
	改善策	学部の人事に一任している形だが、大学院の立場からも意見を述べていきたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	3件の人事採用が、無事、可決され、4件の採用案が、無事、承認された。採用に関するルールも、改善が進んだ。
	改善のための提言	安定した人事採用を継続されたい。
No	評価基準	学生支援
14	中期目標	留学生への日本語教育科目「特別講義Ⅰ～Ⅲ」の効果の検証とフィードバック。
	年度目標	「特別講義Ⅰ～Ⅲ」担当者との情報共有、講義の効果の検証。
	達成指標	特別講義の履修と修士論文の得点との関係の検証、担当教員意への見聴取などをもとに、教授会で議論を行う。また、その結果について、担当教員にフィードバックを行う。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	「特別講義Ⅰ～Ⅲ（日本語）」担当者、留学生の状況、ワークショップや修論指導の情報を共有した。また、特別講義Ⅲと修士論文の成績との関係についても、教授会で情報共有した。
	改善策	「特別講義Ⅰ～Ⅲ（日本語）」は、あらたに「日本語Ⅰ～Ⅲ」の講義名となり、留学生には履修登録が義務づけられる。すべての留学生にとっての基本的な科目で、今後、担当者との情報共有や講義の効果の検証が、より重要になるだろう。
年度末報告	質保証委員会による点検・評価	
	所見	日本語教育科目履修による、修士論文の質向上への効果について、知見が深まった。
	改善のための提言	論文執筆に焦点を当てた日本語教育について、取り組みを継続されたい。
	No	評価基準
15	中期目標	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動（公開講座など）の検討。
	年度目標	経済学部経済学会との共催で、経済学研究科の講義、教授会構成員の研究成果に関する講演会、パネルディスカッションなどの開催の検討。
	達成指標	中期目標期間内に公開講演会、パネルディスカッションなどの実現可能性の有無を経済学研究科教授会内で共有する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	経済学部学会共催でのイベントについて、今年度議論を行う余裕はなかった。しかしながら、経済学部学会研究会には大学院生も参加している。
	改善策	経済学部学会の情報については、とりわけこの状況では院生に伝わりにくい。効果的な情報発信の方法を探りたい。また、経済学部経済学会との共催で、経済学研究科の講義、教

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		授会構成員の研究成果に関する講演会、パネルディスカッションなどの開催の検討を行う。
		質保証委員会による点検・評価
	所見	コロナ禍の中にあつて、公開イベントの議論は棚上げされた。経済学部学会研究会は、安全に最大限配慮したうえで、実施された。
	改善のための提言	コロナ禍の収束後の公開イベント実施について、取り組みを継続されたい。
<p>【重点目標】 2018年度より懸案となっているカリキュラム改革を実現させ、それと同時に定員充足率の向上をはかる。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 導入科目のスリム化はすでに確定しているが、研究指導體制の整備、新規科目の立ち上げまで含め、カリキュラム改革を完成させる。また、これにからめて、大学院での学びについての情報発信を行い、定員充足率の向上をめざす。</p> <p>【年度目標達成状況総括】 今年度、コロナ禍での授業や入試対応に追われ、だいぶ遅々とした歩みであったが、2018年度より懸案となっていたカリキュラム改革の完成に至り、大きな目標が達成されたと思う。定員充足率については、情報発信や、学部での志願者への個別の相談にも対処したが、十分な数を確保したとは言いがたい。とはいえ、学部内進学や、科目等履修生からの入学者は優秀で、質的に高い人材を確保できたとも考えている。次年度以降の課題としては、(1)カリキュラム改革の効果の測定、(2) Ph.D. プログラムの教育内容やQEについての議論、(3)学内外へのより一層の情報発信、(4)（コロナ等もふくめての）授業形態や入試の工夫が考えられるだろう。</p>		

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>経済学研究科は、2020年度の達成状況をみると、いずれの項目においても目標を達成している。特にカリキュラム改革の完成により教育課程・学習成果における質の向上が顕著であり高く評価できる。さらに2020年度より敷かれた分野・教員ごとの指導院生のキャップ制（新規担当院生が2名を超える場合は断ることができる）は、一部教員への負担の集中を防ぎ、学生への適切な指導のためにも重要な取り組みであると思われる。重点目標にも掲げている定員充足率については、十分な数を確保できてはいないが、情報発信や学部での志願者への個別相談にも対処するなど、研究科としての取り組みは評価でき、結果、学部内進学や科目等履修生からの入学者については質の高い人材を確保できている。次年度にむけて、カリキュラム改革の効果測定、Ph.D. プログラムの教育内容やQEの議論、学内外への情報発信、授業形態や入試の工夫、といった課題を認識しており更なる発展が期待できる。</p>

IV 2021年度中期目標・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	大学院の質保証体制を安定的に維持する。
	年度目標	質保証委員会を、年度初め、中間、年度末と、年3回開催する。
	達成指標	質保証委員会の開催記録。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	博士後期課程のコースワークの整備充実。
	年度目標	博士後期課程専用の講義の新設または既存科目の履修学生の要件の変更など検討する。
	達成指標	新カリキュラムについての検証。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	MA コースのカリキュラム改革の検証と改訂。
	年度目標	隔年開講科目の開講、新設講義科目の検討。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	新カリキュラムについての検証。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
4	中期目標	Ph.D. 5年一貫コースの成果の検証（QE試験の効果の検証など）。
	年度目標	修士・博士後期課程での履修が効果的に行われているかの検証を行う。
	達成指標	新カリキュラムについての検証。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
5	中期目標	MAコースの教育方法の再検討。
	年度目標	指導体制の整備。
	達成指標	2021年度の入学者のマッチングについて観察しながら、2022年度からの指導体制を整備する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
6	中期目標	MAコースの教育方法の再検討。
	年度目標	外的要因に左右されない教育サービスの提供。
	達成指標	オンライン授業について教授会内で意見交換を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
7	中期目標	博士後期課程の教育方法の再検討。
	年度目標	コースワークとリサーチワークの適切な組み合わせについて検討する。
	達成指標	実際の履修状況を確認しながら、学生のニーズにこたえられるような科目の開講について検討し、カリキュラム改革を実現させる。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
8	中期目標	博士後期課程の教育方法の再検討。
	年度目標	外的要因に左右されない教育サービスの提供。
	達成指標	オンライン授業について教授会内で意見交換を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
9	中期目標	Ph.D.プログラム（5年一貫コース）の教育手法の再検討。
	年度目標	Ph.D.プログラム（5年一貫コース）の教育手法やそのアピールの方法について模索し、受験生を集める。
	達成指標	Ph.D.プログラム（5年一貫コース）の理念について、教授会内で意見交換を行う。また、進学相談会等で、より強く情報発信を行っていく。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
10	中期目標	M.A.プログラムにおけるコースワークの学習成果への評価の共有。
	年度目標	M.A.プログラム院生の履修状況の把握とその学習成果の把握。
	達成指標	M.A.プログラム1年生が、コースワーク科目とその他の科目をどのように組み合わせて履修しているか把握し、教授会で議論を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
11	中期目標	半期ごとに開催される「修士ワークショップ」及び「博士ワークショップ」の効果についての検討。
	年度目標	修士ワークショップにおける参加教員の集団評価が修士論文の質を反映しているか、集団評価の効果に関して認識の共有を図る。
	達成指標	修士ワークショップ時の評価と修士論文の得点との関係の検証、ワークショップ参加教員の意見聴取などをもとに、教授会で議論を行う。また、ワークショップのあり方について、教授会で議論を行う。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	学生の受け入れ
12	中期目標	外国人留学生の比率が著しく高いので、社会人、一般の入学者数の増加を図る。
	年度目標	進学説明会などで本研究科のカリキュラム、論文指導などの魅力をさらにPRする。と同時に経済学部出身者へのアピールを行う。
	達成指標	新たな宣伝パンフレットの作成。また、努力目標として、毎年度4-5名程度、一般、社会人、学部出身者の入学者数を確保する。
No	評価基準	教員・教員組織
13	中期目標	次のカリキュラム改革を見越しながら、当該期間の人事採用計画を立て、年齢構成の均整化に配慮しつつ、人事採用を実施する。
	年度目標	今年度募集中の人事採用を、年齢構成にも配慮しつつ、成功させる。
	達成指標	教員採用の成否。
No	評価基準	学生支援
14	中期目標	留学生への日本語教育科目「日本語Ⅰ-Ⅲ」の効果の検証とフィードバック。
	年度目標	「日本語Ⅰ-Ⅲ」担当者との情報共有、講義の効果の検証。
	達成指標	日本語の履修と修士論文の得点との関係の検証、担当教員への意見聴取などをもとに、教授会で議論を行う。また、その結果について、担当教員にフィードバックを行う。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
15	中期目標	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動（公開講座など）の検討。
	年度目標	経済学部経済学会との共催で、経済学研究科の講義、教授会構成員の研究成果に関する講演会、パネルディスカッションなどの開催の検討。
	達成指標	中期目標期間内に公開講演会、パネルディスカッションなどの実現可能性の有無を経済学研究科教授会内で共有する。

【重点目標】

本年度からの新カリキュラムを安定的に実施し、定員充足率の向上をはかる。

【目標を達成するための施策等】

混乱なく新カリキュラムを実施するために、そして定員充足率向上のために情報発信をおこなう。外的要因によりオンライン授業を余儀なくされた場合でも教育指導の水準を落とさない体制を構築する。

【2021年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

経済学研究科は、2021年度の目標について、まずは本年度からの新カリキュラムの検証がある。修士課程・博士後期課程・Ph.D.プログラム（5年一貫コース）それぞれにおいて、科目や履修の状況、指導体制、コースワークとコースリサーチの組み合わせなど、教育課程・内容や教育方法についての検証が計画されており評価できる。また新カリキュラムの安定的な実施のためにも情報発信は必要であり、進学相談会や新たなパンフレットの作成など、具体的な目標を設定している。これらにより、例年課題とされている定員充足率問題についても、数だけに注目するのではなく、質の高い人材を考慮しつつ向上が図られることを期待したい。全般的に客観的で適切な目標設定であると評価できる。

【大学評価総評】

経済学研究科の新カリキュラムの特徴は、指導教員による個別的指導と研究科全体での集団指導とが組織化されているとともに、それぞれにおいて学生に寄り添った工夫がみられ、これらは高く評価できる。一方で、2021年度以降カリキュラム改革の効果について検証を行うことが望ましい。

修士課程では、「専攻分野コースワーク」として5分野の専攻（「歴史・思想・制度」「金融・企業」「政策・環境」「国際・地域」「応用ミクロ・応用マクロ・計量」）を配置し、経済学部以外からの入学者向けにリカレント教育のため

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

の「導入科目」を準備している。さらに留学生のための具体的な研究方法を指導する科目も提供している。また修士・博士後期課程ともに、指導教員による個別指導科目に加え、「修士ワークショップ」「博士ワークショップ」では指導教員以外の教員からも多角的な指導を受けることができ、研究科全体での集団指導体制も整っている。

学生への指導もていねいであり、年度初めの研究科長による履修ガイダンスのスライドもわかりやすさの工夫がみられ高く評価できる。学習の活性化においても優秀修士論文賞を設置し、学生にインセンティブを与えるなど様々な仕掛けがみられる。

今後は、このカリキュラムの検証を積み上げていくと同時に、研究科からの情報発信も行うことで、質の高い学生の確保を重視した上での定員充足率の向上にも寄与していただきたい。更なる発展を期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。